

特集
3

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果について

令和6年7月29日、令和6年度全国学力・学習状況調査の結果を公表しました。

①

令和6年度 全国学力・学習状況調査の概要

全国学力・学習状況調査は、義務教育の機会均等とその維持向上の観点から、

- ・全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- ・学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

ことを目的として実施している調査です。

令和6年度調査は、小学校6年生、中学校3年生を対象として、国語、算数・数学を実施しました。また、児童生徒への質問調査について、初めて全面的にオンラインによる回答方式で実施しました。

②

教科調査の結果

(1) 国語

国語の調査結果においては、

- ・事実と感想、意見との区別が明確でないなど、自分の考えを伝えるための書き表し方の工夫
- ・自分の考えなどを記述していても、必要な情報を取り出すことや表現の効果を考えること

に課題が見られました。

例えば、**小学校国語**では、目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題として、以下のような問題（大問2二）を出題しました。

「たてわり遊び」に関する文章の空欄に、次の条件に合わせた内容を書く。

条件① 「たてわり遊び」のよさについて考えたことを書くこと。

条件② 下級生に聞いたことから言葉や文を取り上げて書くこと。

この問題では、条件①・②を満たして書かれた以下のような例が正答となります。

「お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった」という1年生や、「みんなが楽しそうでうれしかった」という4年生がいます。このように、「たてわり遊び」のよいところは、学年をこえた交流ができるころだと思います。

しかし、以下のように事実と感想、意見とを明確に区別せずに、事実を自分の考えのように書いて、条件①を満たせなかった解答が見受けられました。

たてわり遊びをしている下級生の1年生は「お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった」や、3年生は「すきな遊びや新しい友達が増えた」と答えてくれました。このように、みんなたてわり遊びを楽しんでいました。

また、**中学校国語**では、話合いの話題や展開を捉え

ながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題として、以下のような問題を（大問 1 四）出題しました。

「フィルターバブル現象」に関する生徒たちの話し合いを受け、自分ならどのような考えを述べるかを記述する。

条件① フィルターバブル現象の特徴について取り上げながら、これからどのように本を選びたいかを具体的に書くこと。

条件② 話し合いの誰の発言と結び付くのが分かるように書くこと。

この問題では、条件①・②を満たして書かれた以下のような例が正答となります。

今井さんが言うように、フィルターバブルには好みに合った本を選んで示してくれるという便利な面もあるし、藤田さんが言うように、それ以外の本に出合いにくくなることもあるので、本を選ぶときには、インターネットと図書館などを使い分けたいと思います。

しかし、話し合いの目的を踏まえてフィルターバブル現象の特徴を取り上げることができず、条件①を満たせなかった解答が見受けられました。

山岡さんが話してくれた、様々な人がおすすめの本を紹介しているウェブページを利用して本を選んでみたいと思いました。

以上のような調査結果を踏まえると、国語科の指導においては、小・中学校を通じた効果的な資質・能力の育成のため、記録、要約、説明、論述、話し合い等の言語活動を工夫することが重要と言えます。

(2) 算数・数学

算数・数学の調査結果においては、

- ・図形や単位量当たりの大きさ（速さなど）について、深い理解を伴う知識の習得やその活用
- ・複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること

に課題が見られました。

例えば、**小学校算数**では、球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる問題として、以下のような問題（大問 3 (3)）を出題しました。

直径 22cm の球の形をしたボールがぴったり入る立方体の体積を求める式を書く。

正答は「 $22 \times 22 \times 22$ 」です。しかし、深い理解を伴う知識の習得ができておらず、体積の単位とこれまでに学習した単位との関係を考察できていない以下のような解答が見受けられました。

- ① 22×22
- ② 22×3.14 など、3.14 を用いた式
- ③ 22×6 等

速さの意味を理解しているかどうかをみる問題として、以下のような問題（大問 4 (4)）も出題しました。

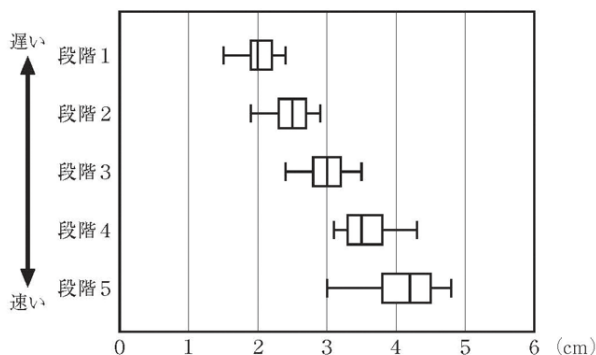
家から郵便ポストまで分速 200m、郵便ポストから図書館まで分速 200m のとき、家から図書館までは分速何 m かを求める。

この問題では、速さの意味について理解していれば、計算せずとも「分速 200 m」という正答を導き出すことができますが、速さの意味や表し方についての理解に課題がある以下のような解答が見受けられました。

- ① 分速 400 m
- ② 分速 1000 m

中学校数学では、複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる問題として、以下のような問題（大問 7（2））を出題しました。

車型ロボットの進んだ距離について、「速さが段階 1 から段階 5 まで、だんだん速くなるにつれて、進んだ距離が長くなる傾向にある」と主張することができる理由を、進んだ距離の分布の 5 つの箱ひげ図を比較して説明する。



この問題では、以下のように複数の箱ひげ図を比較して、データの分布の傾向について判断した理由を説明できていれば正答となります。

速さが段階 1 から段階 5 まで、だんだん速くなるにつれて、箱ひげ図の箱の位置が右側にずれていっている。

しかし、判断した理由を説明することに課題があると思われる、以下のような解答も見受けられました。

- ・ 段階 1 と段階 5 を比べると約 2 倍の差がある。
- ・ 段階が速いと箱ひげ図は 3cm よりも後ろにあるが、段階が遅いと前にかたまっている。

以上のような調査結果を踏まえると、算数・数学科の指導においては、日常生活を絡めながら、活用できる知識・技能を習得させること、データの活用につい

ては、小学校段階からデータを言葉と数を使って表現する力を身に付けさせることが重要と言えます。

3

質問調査の結果

(1) 学習指導要領の趣旨を踏まえた取組

まず、主体的・対話的で深い学びに取り組んだと考える児童生徒ほど、各教科の正答率が高く、自分で学び方を考え工夫している傾向がみられました。また、児童生徒の主体的・対話的で深い学びに関する回答と挑戦心・自己有用感・幸福感等に関する回答との間には相関が見られました。

また、家庭の社会経済的背景 (SES: Socio-Economic Status) が低いグループほど、各教科の正答率が低い傾向が見られます。しかし、「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだ児童生徒は、SES が低い状況にあっても、各教科の正答率が高い傾向が見られました。

さらに、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実についても分析しました。令和 3 年 1 月 26 日中央教育審議会答申において、これからの社会を生きる子供たちに必要な資質・能力を育成するため、ICT も最大限活用しながら、多様な子供たち一人一人の特性や学習の進度等に応じた「個別最適な学び」と、子供たち同士が互いのよい点や可能性を生かしながら一緒に学ぶ「協働的な学び」の一体的な充実が求められるとされています。児童生徒質問調査の結果によると、授業が自分にあった教え方、教材、学習時間になっていた（個別最適な学びに取り組んだ）と考える児童生徒の割合は 8 割以上、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んだ（協働的な学びに取り組んだ）と考える児童生徒の割合は 9 割以上でした。さらに、個別最適な学び・協働的な学びの両方に取り組んだと考える児童生徒グループは、正答率が高く、「授業の内容はよく分かる」「学校

に行くのは楽しい」「自分にはよいところがあると思う」と回答する傾向が見られました。

(2) ICT機器の活用

ICT 機器の活用については、「ほぼ毎日」又は「週3回以上」活用する学校が増え、小学校 93%、中学校 91% となりました。また、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を進め、課題の解決に取り組む学習活動を行っている学校ほど、そのような学習場面での ICT 機器の活用頻度が高いと回答していました。そして、その両方に取り組んだ学校グループの児童生徒は、それ以外の学校グループに比べて、各教科の正答率が高いことも明らかになりました。

また、ICT 機器が、不登校児童生徒、特別な支援を要する児童生徒、外国人児童生徒に対する学習活動等の支援などにも活用されつつあることも分かりました。

次に、今年初めて質問した ICT 機器活用の効力感についてです。約9割の児童生徒が、ICT 機器は「分からないことがあった時に、すぐ調べることができる」「画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる」「友達と考えを共有したり比べたりしやすくする」と考えていました。また、主体的・対話的で深い学びに取り組んだと考える児童生徒ほど、ICT 機器活用の効力感が高いことも分かりました。さらに、ICT 機器活用の効力感について肯定的に回答した児童生徒ほど、挑戦心・自己有用感・幸福感等について肯定的に回答しており、そのような傾向は特に SES が低いグループにおいて見られました。

(3) 学習に対する興味・関心や授業の理解度

今年度、教科調査では理科や英語は実施していませんが、質問調査において取組状況に関する質問を行いました。

まず、理科については、理科の授業で自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている児童生徒の割合は、前回令和4年度調査から増加しました。なお、前回

調査では、予想をもとに観察・実験をしている児童生徒ほど、理科の正答率が高く、「理科が好き」と回答する傾向が見られています。

また、英語の授業において言語活動に取り組んだと考える生徒の割合は、前回令和5年度調査から増加傾向にありました。なお、前回調査では、言語活動に取り組んだと考える生徒ほど、英語の正答率が高く、「英語の勉強は好き」と回答する傾向が見られています。質問調査の結果（挑戦心・自己有用感・幸福感等）「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいあるか」の質問に、約90%の児童生徒が肯定的に回答していました。

また、「地域や社会をよくするために何かしてみたいか」の質問に肯定的に回答した児童生徒は、小学校で84%（前年比7ポイント増）、中学校で76%（前年比12ポイント増）となりました。この質問は、「持続可能な社会の創り手」を育むという学習指導要領前文の趣旨に関して児童生徒自身の考えを尋ねる質問項目とも言えます。授業で学んだことを次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができると思う児童生徒ほど、この質問にも肯定的に回答している傾向がありました。また、「総合的な学習の時間」「学級活動」への取組状況とこの質問の回答状況に相関が見られました。

(4) 学校外での過ごし方

まず、学校の授業時間以外における児童生徒の勉強時間は、小中とも令和3年度以降、平日、休日いずれも減少傾向となっています。勉強時間の減少傾向も含めた学力の状況については、今年度中に公表予定の経年変化分析調査の結果も踏まえながら分析する必要があります。

また、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯型のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む。）をする時間は小・中学生とも横ばい、SNS・動画視聴の時間は、小学生は横ばい、中学生は微増の傾向でした。一方、普段テレビゲームをする時間が1日当

たり33 時間以上であるグループ（児童生徒の約 30%）は、1 日当たり 3 時間未満のグループより勉強時間が短く、毎日同じくらいの時刻に寝ていない傾向が見られました。また、普段 1 日当たり 3 時間以上 SNS や動画視聴などをするグループ（小学校児童の約 21%、中学校生徒の約 32%）と3時間未満のグループとの比較でも、同様の傾向が見られました。テレビゲームや SNS・動画等の利用については、学校や家庭でのルール作りが引き続き求められます。

(5) 家庭の社会経済的背景 (SES)

本調査は義務教育の機会均等を目指しており（①参照）、調査結果を SES の観点から分析することも期待されています（令和 3 年 6 月教育再生実行会議第十二次提言）。学力は学校の教室だけで培われるわけではなく、SES が高いほど正答率などが高い傾向が国際的にも共通してみられます。その中で、主体的・対話的で深い学びによる格差改善の可能性が確認されていることは、大きな意義があります（③ (1) 参照）。

SES の観点からの分析は従来、3 年に 1 回程度抽出で行われる保護者に対する調査の結果を利用して行われていました。令和 3 年度からは、児童生徒質問（紙）調査に「あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか」という項目が盛り込まれ、これを代替指標とすることで簡易に SES の分析ができるようになりました。各教育委員会や学校においても、充実した学びを下支えする取組や効果を多角的に把握する一助として御活用ください。

・ 報告書（各教科、質問調査）

<https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/>

○都道府県・指定都市別の実施概況・実施概況補助資料

<https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/factsheet/prefecture-City.html>

※ページ上部の「1. 実施概況」に掲載

○令和6年度全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた学習指導の改善・充実に向けた説明会

<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/setsumeikai/r06setsumeikai/index.html>

4

調査の結果の詳細

調査結果の詳細は国立教育政策研究所のホームページで御覧いただけます。

○調査報告書・調査結果資料

- ・ 結果（概要）（全 50 ページ）
- ・ 結果（概要）のポイント（全 6 ページ）